

令和7年3月14日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	渋谷区山谷かきのみ園
所在地	渋谷区代々木 3-32-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

4歳児は、園の自然に興味関心をもつ子が多く、日常的に遊びの中で自然物に触れたり、それを取り入れたりする姿が見られる。遊びに没頭し夢中になりながら、より探究的に自然と深く関わる機会をつくりたいと考えた。

2. 活動スケジュール

子どもたちが園庭の自然環境を遊びに取り入れる様子を捉え、その時々興味関心に応じた自然との関わりを基に活動を進めることにした。

10月、芋ほり遠足でどんぐりをたくさん拾うことができた。持ち帰ったどんぐりを保育室に並べ、自由に遊びの中で触れられるようにした。大きさや形、また、中から出てきたゾウムシに夢中になる様子があり、遊びに取り入れたり、のびのびと描画や造形で表現する機会を設けたり、小グループで対話したりして個々の思いや気付きが学級に広がる時間もつくるようにしていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・園庭、園外保育等で収集した自然素材
- ・秋の自然素材を入れて提示するための容器類
- ・飼育容器
- ・コーナー設定のための棚や布
- ・ライトテーブル（トレース台）、卓上ライト
- ・虫メガネ、図鑑、絵本
- ・描画用の様々な紙類、画材類
- ・観葉植物、種
- ・大型モニター

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

活動①：遊びの中で自然物に自由に触れられるようにする

遊びのコーナーの一部としてどんぐり等の秋の自然物を並べて配置し、好きな遊びの時間に自由に手に取れるようにした。立つどんぐりの発見、ゾウムシの飼育へと子供の興味が広がっていった。

活動②：みんなで共有タイム

どんぐり、ゾウムシ、芽が出ているどんぐりについて、発見したことや思ったことを学級で話す機会をつくる。自分の言葉で話したり、友達が話す言葉に耳を傾けたり、さらに思ったことを伝えたりできるようにした。

活動③：どんぐりの中ってどうなってるの？芽が伸びたらどうなるの？

どんぐりについて発見したことや思ったことを話す中で、子どもたちがどんぐりの中にある世界を確かにイメージしていることが伝わってきた。言葉だけではなく絵に描いて表現することにした。

活動④：環境構成を工夫する

保育室のコーナーの配置の仕方、素材の並べ方、色調などを工夫することにした。また、園庭（外）の環境と保育室（中）の環境がつながりをもつようにした。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

活動①

・空き箱やラップ芯材などを使ってどんぐり転がし装置を作ったり、芽の出たどんぐりを土に植えたりしていた。また、どんぐりを大切に扱う姿、そのどんぐりから出てきたゾウムシに愛着をもち、大切に世話をする姿があった。

活動②

・子どもたちがどんぐりやゾウムシに触れていく中で感じたこと、考えたことをみんなで共有する「どんぐりにゆーす」の時間では、どんぐりの中の世界とどんぐりの芽が伸びていった先のことについて子どもたちは思い思いに想像を巡らせて豊かな言葉で表現していた。友達の話に聞き入って楽しんでいる様子も見られた。

活動③

・大きな紙にのびのびと自由に描き込む姿があった。描いた絵について担任が聞き取った際には、活動②の時間以上に自分のイメージしていることを言葉で伝えようとする姿があった。

活動④

・保育室の自然環境がより魅力的なものに整えられたことにより、自然コーナーに登園後必ずやって来たり、芽の生長に興味をもって観察を継続したりするようになった。また、自然コーナーに設置した園庭の植物を同じように園庭でのごっこ遊びに取り入れていた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・子どもたちは自分の身の回りのこと、経験したことを記憶して感じて、つなげて捉えようとしているのではないかと。子どもたちは自分が生活し生きていくのに何が必要かを把握していると思われる。どんぐりの中の世界の話だったが、自分たちの世界の話であったことが大変興味深かった。
- ・子どもたちは生きているものに対して共感的な思いで接していることが、子ども自身の言葉からも伝わってきた。
- ・環境設定をする際に、経験してほしいことを考えるのは大前提として、さらに審美性を考えて配置することが大事である。子どもの意識の向け方に違いがあると感じた。
- ・保育室（園内）と外（園庭）をつなげる工夫により、子どもにとって自然がより身近に遊びの中でも感じられるものになったのではないかと。

以上